令和８年 11 月 16 日
海　上　保　安　庁

硫黄島南岸沖の火山活動について
～新たな陸地形成を確認～

11 月 13 日、海上保安庁海洋情報部は、第三管区海上保安本部 羽田航空基地所属航空機により、硫黄島の火山観測を実施したところ、硫黄島南岸の翁浜（おきなはま）沖で噴火し、噴出物により形成された陸地が硫黄島に接続していることを確認しました。海上保安庁では、引き続き航行警報を発出しています。付近を航行する船舶は注意してください。

１．観測結果

（１）硫黄島南岸の翁浜沖約 700m（北緯 24 度 45.8 分 東経 141 度 20.1 分）において、高さ約 300mの噴煙と断続的かつ小規模な爆発を伴う噴火活動を確認しました。

（２）噴出物により陸地が形成され、北に向かって広がっており、北東端で硫黄島に接続しています。

（３）形成された陸地の周囲に少量の浮遊物を確認しました。

（４）島の全周にわたり茶褐色・黄褐色から黄緑色の変色水を確認しました。

２．海上保安庁では引き続き航行警報を発出して、付近を航行する船舶に注意を呼びかけています。

３．東京科学大学 総合研究院 多元レジリエンス研究センター 火山・地震研究部門 野上健治教授（航空機同乗）のコメントは以下のとおりです。

（１）灰黒色の噴煙が連続的に見られた。

（２）小規模な爆発を繰り返しており、航空機からの熱赤外観測によると高温の溶岩片が放出されている。

（３）以上のことから、硫黄島ではマグマが海面より高いところまで上昇して、ストロンボリ式噴火※が継続していると考えられる。

※ストロンボリ式噴火：比較的粘性の低いマグマの間欠的爆発による噴火。

４．硫黄島南岸沖における近年の火山活動について

硫黄島南岸の翁浜沖では、令和４(2022)年７月以降、断続的に噴火が確認されており、令和５(2023)年 10 月からの噴火では新島が形成されましたが、その後消滅しました。気象庁によると、10 月 27 日から噴火が確認されています。

＜参考＞　硫黄島南岸沖の火山活動に関する過去の広報

令和５(2023)年 11 月 10 日　硫黄島南岸沖の火山活動について（11 月 10 日観測）

令和５(2023)年 11 月 24 日　硫黄島南岸沖の火山活動について（11 月 23 日観測）

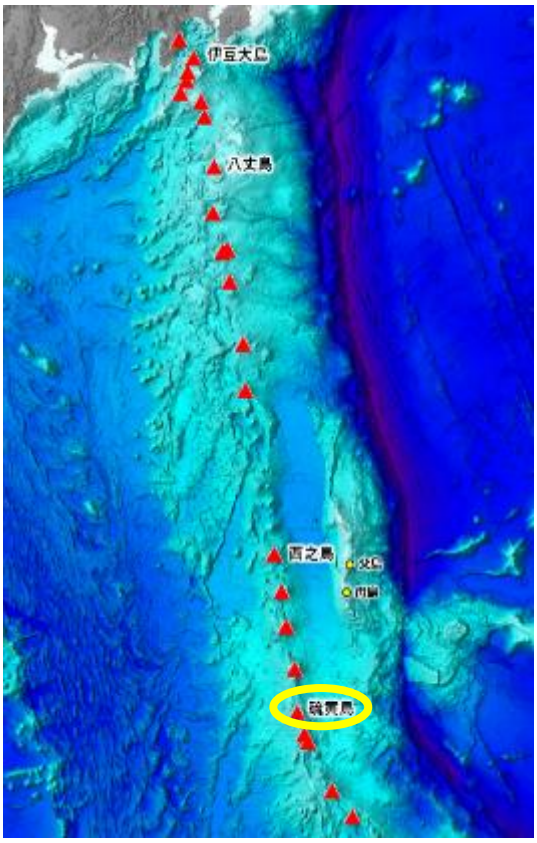


図１　硫黄島の位置図

出典：海しる（海洋状況表示システム）

Web アドレス：https://www.msil.go.jp



図２　噴火地点



図３　翁浜沖の噴火の様子（上：遠景、下：近景）
（11 月 13 日 14：00 撮影）

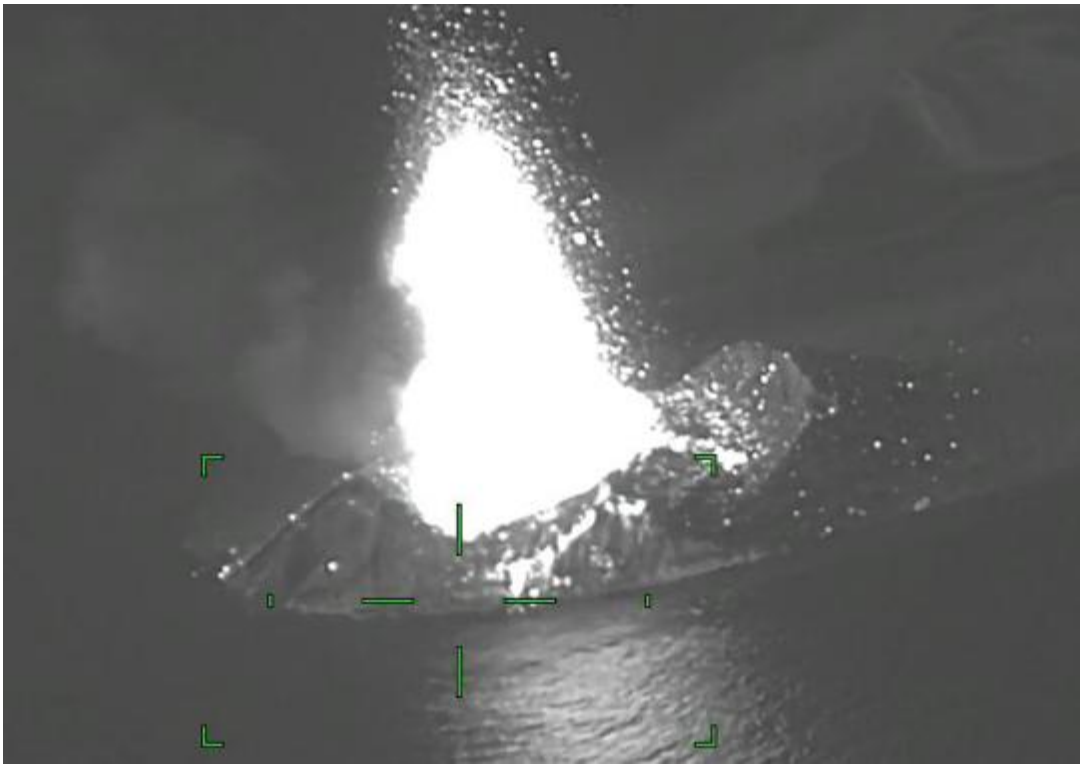


図４　翁浜沖の噴火の様子（熱赤外画像）
（11 月 13 日 13：37 撮影）